令和５年７月 28 日	
所　属	文化振興課
所属長	苅田　昭憲
電　話	06－6489－6385

「第２回白髪一雄現代美術賞」井上 裕加里さんに決定
表彰式を実施します

尼崎市は、第２回白髪一雄現代美術賞の受賞者を次のとおり決定し、表彰式を実施いたします。つきましては、是非ご取材いただきますよう、お願い申し上げます。

１　受賞者

井上 裕加里（いのうえ　ゆかり）氏　※略歴等は別紙１のとおり
【展示プラン】世界の女性の地位の問題をテーマとした制作

２　表彰式について

日時：８月４日（金）午前 10 時 30 分～11 時
場所：尼崎市役所　南館２階　市長室
出席者：被表彰者、市長、副市長、総合政策局長など

３　受賞者の決定方法について

公募により募った候補者の中から、選考委員による選考会で受賞候補者を選定いただき、その後、本市において受賞者を決定しました。　※選考委員講評は別紙２のとおり

４　今後の活動について

令和６年度中に展覧会を A-LAB 等尼崎市内の公共施設・公共空間で開催します。開催内容については、今後協議を進めていきます。

５　白髪一雄現代美術賞について

既成概念にとらわれない前衛作品を発信し世界的に評価された本市ゆかりの現代美術画家・白髪一雄氏にちなみ、若手アーティストによる先駆的で魅力ある現代美術作品を顕彰することによって、現代美術における若手アーティストの発表・創造の機会の創出及び若手アーティストのこれからの活躍を応援しています。

以　上

別紙１

井上 裕加里（いのうえ　ゆかり）

【略歴】
1991 年　広島県生まれ
2012 年　倉敷市立短期大学 服飾美術学科 卒業
2014 年　成安造形大学 芸術学部芸術学科美術領域
　　現代アートコース 卒業

個展
2022 年　井上裕加里 展（CAS/大阪）
2022 年　Women atone for their sins with death（Kunst ARZT/京都）
2019 年　線が引かれたあと（Kunst ARZT/京都）
2017 年　堆積する空気（Gallery PARC/京都）
2015 年　井上裕加里 展（CAS/大阪）

グループ展
2023 年　産まみ（む）めも（oz studio 渋谷/東京都）
2022 年　第 1 回 MIMOCA EYE / ミモカアイ（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/香川）
2022 年　JAPAN/KOREA ART Communications 日韓藝術通信 7 Gift（OHARANO Studio /京都）
2021 年　Soft Territory かかわりのあわい(滋賀県立美術館/滋賀)
2021 年　日韓藝術通信５　温度/온도(オンド）―往復書簡―（The Terminal Kyoto/京都）
2020 年　Kyoto Art for Tomorrow 2020―京都府新鋭選抜展―（京都文化博物館/京都）
2019 年　Parallax Trading（das weisse haus / Vienna, Austria ）
2019 年　Kyoto Art for Tomorrow 2019―京都府新鋭選抜展―（京都文化博物館/京都）
2018 年　日韓交流展「韓日藝術通信 part 3」（ART SPACE SAGA/京都）
2017 年　京都府アーティスト・イン・レジデンス事業「京都：Re-Search」 大京都 in 舞鶴（聚幸菴/京都）
2017 年　日韓交流展「韓日藝術通信 part 2」（チョンジュ森中 GALLERY/韓国チョンジュ市）
2014 年　日韓交流展 CARRY MORE（韓国電力アートセンターギャラリー/韓国ソウル）
2013 年　「ここはどこか、あるいは何か」（越山計画/札幌）

受賞歴
2022 年　選考委員個人賞 植松由佳賞（第 1 回 MIMOCA EYE / ミモカアイ 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/香川）
2022 年　平和堂財団芸術奨励賞 美術部門
2020 年　“ゲーテ・インスティトゥート ・ヴィラ鴨川国際交流賞”（Kyoto Art for Tomorrow 2020―京都府新鋭選抜展― ）
2019 年　“ゲーテ・インスティトゥート ・ヴィラ鴨川国際交流賞”（Kyoto Art for Tomorrow 2019―京都府新鋭選抜展― ）

【代表作品】

1｜ こうさするこうえん Crossing park / iron / 2021 / soft territory / 滋賀県立美術館 / photo by 麥生田兵吾

2｜Grouping -Japan,Korea- / two channel video 15,'00″ / 2021 / soft territory / 滋賀県立美術館 / photo by 麥生田兵吾

3｜marginal woman -境界人- / vtext・two channel video 7'15″ / 2019 / Kyoto Art for Tomorrow 2019

All photo' s © Yukari INOUE

第２回白髪一雄現代美術賞　選考委員講評

別紙２

岡本　梓氏

世界には人種、ジェンダー、階級などの問題が複雑に絡みあって在るが、慣習も価値観も違う国の実情は簡単に理解できるものではなく、同じ国であっても立場が違えば共感は難しい。そのなかで、受賞者の井上裕加里さんは社会からこぼれ落ちている人びとの問題を作品に取り上げ、直截的な批判ではなく、ユーモアや物語性を交えた表現で提起することで「人間とは何か」という根源的な問いを示唆しているところに可能性を感じた。

岡本　光博氏

ある応募者の白髪氏のオマージュ作品は、ベタ過ぎではあるが、本企画にはピッタリであった。しかし、既発表作からの新たな試みは未消化な印象を受けた。別の応募者のプランも可能性を感じたが、A-LABの空間では良さが引き出せないように思えた。井上裕加里さんのプランは、未知数な部分はあるが、イランで制作する新作は、一番見たいと思わせるものであった。イランはジェンダーバランスも悪く、米国式視点に毒された我々には“遠い”国。それも踏まえて、イランでなければならない何かを突き付けてくれるのではないかと楽しみである。

加藤　義夫氏

若手作家による先駆的で魅力的な作品を選考基準とした「第２回白髪一雄現代美術賞」では、各作家によるプレゼンテーション選考において、受賞者は井上裕加里さんに決定。他の作家との大きな違いは、アートと社会の関係性を感じさせるテーマ「世界の女性の地位の問題」。人類の永遠の課題でもあり、イスラム世界と日本社会をつなぐ。最終選考で議論に上がったのが、フットペインティングを制作方法に採用していた白髪一雄氏に相通じる、「行為の芸術」をパフォーマンスとする作品。その作風も白髪氏の名前を冠した賞の候補としては捨てがたいと感じた。

原　久子氏

井上裕加里は制作テーマのひとつに女性の地位や弱者への眼差しを掲げてきた。現代社会に欠かせない“告発ツールとしてのSNS”、記号的に女性を象徴するものとして扱われてきた“髪”、繊維を用いる女性が担う伝統的な手仕事の現場など、いずれも現代美術の表現の要素として用いられることがよくある。典型的な手法とも見える側面もあり審査過程で議論もあったが、井上はそうしたことを承知の上で見るものに訴えかける作品を制作する。提出されたプランもこれまで着手されてこなかった領域への挑戦も含まれており、今後の活躍を期待できると考えた。

平田　剛志氏

ご応募、発表頂いた応募者の皆様ありがとうございました。白髪一雄の作品や先駆性とは何かを考えながら審査に臨みました。井上裕加里さんのプランは、中東におけるフェミニズムをテーマに現地制作を試みる果敢な行動力に目を見張りました。コロナ禍で失われていた自由な移動を通じて「不自由」とは何かを考える旅の先に何があるのか。リスクもありますが、審査員の一人として作家の熱量に背中を押す責任を共有し、連帯したいと感じました。